

令和2年度

事業計画実績報告書

自 令和 2年 4月 1日
至 令和 3年 3月31日

社会福祉法人 横手福寿会
〒019-0703 秋田県横手市増田町吉野字梨木塚100-1

< 目 次 >

| | |
|---------------------------|-------|
| 1. あゆみ | 1 |
| 2. 介護老人保健施設 りんごの里 福寿園 | |
| ・ 各部門総括 | 2～11 |
| ・ 各種委員会総括 | 12～15 |
| ・ 研修・出張の実施状況 | 16 |
| ・ 職員学習会の実施状況 | 17 |
| ・ 年間行事計画の実施状況 | 18 |
| ・ 慰問・ボランティア・実習等の状況 | 19 |
| ・ 防災計画の状況 | 20 |
| 3. グループホーム ひだまりの家 | |
| ・ 総括 | 21 |
| ・ 各種委員会総括 | 22～23 |
| ・ 年間行事計画の実施状況 | 24 |
| ・ 慰問・ボランティア・実習等の状況 | 25 |
| ・ 防災計画の状況 | 26 |
| 4. グループホーム ひなたの家 | |
| ・ 総括 | 27 |
| ・ 各種委員会総括 | 28～32 |
| ・ 年間行事計画の実施状況 | 33～34 |
| ・ 慰問・ボランティア・実習等の状況 | 35 |
| ・ 防災計画の状況 | 36 |
| 5. ショートステイ ラ・ボア・ラクテ | |
| ・ 総括 | 37～38 |
| ・ 各種委員会総括 | 39～42 |
| ・ 研修・出張の実施状況 | 43 |
| ・ 職員学習会の実施状況 | 44 |
| ・ 年間行事計画の実施状況 | 45～46 |
| ・ 慰問・ボランティア・実習等の状況 | 47 |
| ・ 防災計画の状況 | 48 |
| 6. 居宅介護支援センター、訪問介護センター 総括 | 49 |
| 7. 訪問リハビリセンター 総括 | 50 |
| 8. ラ・ボア・ラクテ 居宅介護支援センター 総括 | 51 |
| 9. 事業別利用者状況表 | 52 |

令和2年度のあゆみ (令和2年4月1日～令和3年3月31日迄)

| | |
|----------|------------------|
| 令和2年 | |
| 5. 15 | 監事監査 |
| 5. 18～19 | 入所者胸部レントゲン（結核健診） |
| 5. 27 | 理事会 |
| 6. 12 | 評議員会 |
| 6. 17 | 避難訓練 |
| 8. 7 | 屋内夏祭り |
| 8. 25 | 安全運転者講習 |
| 8. 28 | 花火大会 |
| 10. 21 | 避難訓練 夜間想定 |
| 11. 11 | 寿司キャラバン |
| 11. 11 | 理事会 |
| 11. 19 | 実地指導 |
| 11. 25 | 評議員会 |
| 令和 3年 | |
| 3. 15 | 理事会 |
| 3. 30 | 評議員会 |

令和2年度 介護計画課 総括

1. 目標1 在宅復帰支援

在宅復帰者は34名（前年度と同数）で、在宅復帰率は年間を通して30%以上を維持する事が出来た。リハビリ入所のほか、経管栄養者や痰吸引など医学的な管理ニーズがある方を積極的に受け入れる事で加算点数の向上に繋がり、年度途中から在宅強化型の算定を行う事が出来ている。地域のリハビリ施設として浸透してきている実感から当初、年間50名の在宅復帰者を予定していたが、入所後の状態変化（疾患や骨折など）や、ご本人様・ご家族様の方針変更で退所後は特養への入所やロングショートの利用になり、在宅復帰に至らないケースが多くあった。また、特に冬季間（12～3月）の体調不良者や在宅復帰者の減少から、復帰率が20%近く下がっており、予測を大幅に下回った場合の対応策が課題となっている。

2. 目標2 安定した稼働率の維持

年間平算で入所90.4人（前年度92.0人）、短期入所8.2人（前年度6.3人）、合計98.6名（前年度98.3名）となっている。入所のベッド回転率上昇と退所後のリハビリ継続希望により短期入所のベッド数を一定期間（4～11月）増やした。入所、短期入所ともに入退所が頻繁になっているが、他部署と連携しながらスムーズに行う事が出来た。次年度は在宅復帰率や回転率の上昇、稼働率維持が同時にできるよう努めていく。

3. 目標3 多職種、各課との連携

事前面談やカンファレンス、在宅訪問など各課の協力を得て行う事が出来た。

4. 目標4 職員のスキルアップを図る

ZOOMを利用した研修などにコロナ禍でも比較的参加できたと思う。画面上だけの交流になっているので、意見や情報交換する機会は例年よりも減少したと感じている。

5. 目標5 ケアマネジメント業務

日頃の状態把握に努め、定期の他に状況に応じたプラン変更やカンファレンス日程を組むことが出来ていた。コロナ禍で家族とは電話や書類でのやり取りになっているが、状態が分かりやすいように伝える事を心がけた。

6. 目標6 相談及び援助

相談者のニーズに応じた提案や、居宅支援事業者への情報提供や相談などはスムーズに出来ていた。

令和2年度 介護課 総括

1. 利用者様の尊厳を守り、生活機能の維持・向上に努める。
 - 3 F・在宅復帰に関わるフロアの職員の意識が高まり、会議などでも活発な意見交換が出来た。
 - ・在宅復帰者に対して体力測定、排泄や認知症状の状態確認や、検討課題を把握し、スムーズに在宅復帰が出来る様に在宅復帰カンファレンスを1ヶ月毎に定期的に行った。
 - ・月に2～5名程度の在宅復帰者を出す事が出来た。また、退所前にはご家庭へ実際に訪問し、現状の確認（ご利用者の身体状況や屋内の環境など）や介助方法を把握して頂くことができ、復帰後の生活課題などを共有できたと感じている。
 - ・在宅復帰者をリハビリステイと位置づけ、退所日まで毎日個別訓練の実施を行う事が出来た。リハビリ職員による個別リハビリが無い日には介護職員がOT、PTが作成したメニューを実施している。リハビリの回数が増えた事で在宅へのモチベーション維持や、心身状態の共有についてリハビリ課との連携を密にできた。
 - 2 F・タクティールケアは施術担当職員の産前産後休暇の為に実施する事が出来なかった。
 - ・集団活動の種類を増やし、曜日ごとに内容や目的が違う取り組みを行う事が出来た。また実施曜日・時間が利用者様に定着し、個々が時間管理する事で認知症の進行防止が出来た。
 - ・職員の欠員により【いきいきプログラム】を実施することが困難であり、週1～2回程度の開催にとどまった。開催時は介護度が高くほぼ寝たきりの方々へ、音楽を聴いたり、映像を見ながら離床する事で体力の増加や生活にハリを作る事が出来た。
 - ・利用者様個々が自発的に編み物や折り紙、木工細工など個々の好きな物を好きな時間に行う事が出来るスペースを西棟談話室に作っている。日常生活の幅が広がり、選択肢が増えた事で自発的に行動する方が多くなった。また、月に1回「体験工房」を実施。身体が不自由であっても作れる様な簡単な物で、実用的な物を作成した。毎回20人前後の方々に参加しており、楽しみのある生活を継続していく事で、認知症からくる問題行動や周辺症状にも効果が表れている様であった。
 - ・ヒヤリハット報告書への記入する意識が高まった事、またヒヤリハットを活用し、未然に事故を防ぐことが出来た。
 - ・学習会や日々の啓発活動によって、インフルエンザ等の施設内への持ち込みや蔓延を防ぐことが出来た。
2. 介護サービスの向上、人材育成への取り組み強化
 - ・課内学習会は定期的に開催する事が出来たが、職務経験ごとのキャリア研修会や外部研修へは参加出来なかった。新入職員のオリエンテーションや職員の病欠・退職が重なり、準備期間の確保や業務としての施設外の研修参加が難しかった。
 - ・東西兼務が出来る職員が約半数となっており、フロア全体を通して意見が出来る様になった。フォロー体制も充実し、東西ブロックの協力体制が密になった事で、業務改善による職員の負担軽減が実施出来ている。
3. 高齢者虐待、身体拘束、感染予防の周知徹底
 - ・委員会と協力しながら、資料配布や全体学習会で定期的に注意を促す事が出来た。虐待の事例はなく、今後も絶対に発生する事がないよう徹底した注意喚起を行なっていく。
 - ・感染症に関して、令和2年度は新型コロナウイルス感染予防を第一に行った。施設内で蔓延する事はなかったが、症状を疑うような場合の初動対応について、状況を把握し適切な行動が出来た。またマニュアルを作成し状況に合わせた判断が出来るようにした。今後も対応策の確認等、定期的に行っていき注意を促していく。

令和2年度 看護課 総括

1. 利用者様個々の状態に合わせての対応に努めている。体調不良を伝えられない利用者様も多いため、次年度も病歴等にも留意し、リスクを早期に回避できるように状態の把握に努めたい。また、薬剤や備品の管理の効率化については引き続き検討していきたい。
2. 感染症の早期発見と対応については、従来の感染症に加え新型コロナウイルスへの対応について、施設長、関係部署と共同にてマニュアルを作成した。

令和2年度 通所リハビリテーション課 総括

1. 利用者様の自立を目指し、生きがいのある生き生きとした生活を送る為に支援する。
曜日ごとの小集団活動は時間や内容を見直し、自ら選んで楽しく活動できるように利用者様の継続的な参加意欲を促した。今後も自主的な活動として活発的に行っていく。
やる気ポイント制度においては、新たに利用者様へ分かりやすく掲示する事で内容を周知し、活動内容についても再検討し、職員間で共通認識のもと利用者様へ支援するようにした。次年度は、利用者様がさらに主体的に活動でき、職員と共に通所リハビリを作り上げていけるような環境を目指していく。
介護リハビリについては、10月1日から廃止し、作業療法士・理学療法士による個別・集団リハビリを強化している。介護職員も生活の中で、リハビリに対する視点をさらに高めながら、今後もしリハビリ課職員と連携し情報共有に努め、機能維持に努めていきたい。
2. 利用者様やご家族様が満足と達成感を得られる、質の高いサービスを提供する。
普段の業務と擦り合わせた内容を取り上げた課内学習会を定期的に行うことで、知識の向上に努めた。
また、定期的な利用以外にもご家族都合などによるスポット利用に関して都度実施することができた。家族のレスパイト目的の利用に対しても、しっかりと役割を果たせるように努めていきたい。
3. 安全・安心に利用していただける環境作りに努め、細心の配慮を心掛け、サービス提供時の事故・トラブル減少に努める。
車両事故について、利用者様・職員の怪我等はなかったものの、同乗していた利用者様、またご家族様に対して多大なるご迷惑を掛ける結果となった。法令の順守及び安全を第一とした運転業務の遂行を強く指導し、次年度は、事故件数ゼロになるように運転手のみならず添乗員も責任を持って送迎にあたる。特に冬期間は視界も悪く道幅も狭い為、時間に余裕を持ち、行動する事を心がける。
利用中の転倒及び事故は15件、骨折や受診に至るケースあり。同じようなトラブル

や、再発防止策がしっかりと出来ていない事によって起きた事例もあるため、職員個々の危険予知能力を高め、ヒヤリハットやインシデントを周知し、適切な業務遂行で事故ゼロを目指す。

感染症においては、迎え時の体温測定・体調確認、コロナウイルス対策を徹底した事で感染には至らなかった。今後も継続して感染予防を徹底していく。

令和2年度 リハビリ課 総括

【入所】

11月より個別リハビリの提供数を段階的に増やし、12月半ばに全入所者様に週3回の個別リハビリの提供が可能となった。

①10月まで2名体制でのクラブ活動を継続していたが、11月より入所利用者様へ週3回の個別リハビリを行うために、療法士がクラブ活動に携わることが困難となり、レクリエーション係1名でクラブ活動を行うこととなった。1名体制のためリスク管理の点から参加人数や提供内容が限られており、クラブ活動内で利用者様の残存能力を引き出すことや楽しみ・興味を掘り下げることが難しくなっている。

②在宅復帰予定者に対しては密に介護課と協力し、利用者の生活諸動作を要介助から見守り、自立へとレベルアップすることができた。在宅復帰予定であったにもかかわらず、骨折などによりリハビリテーションを中断せざるを得ない事例があったが、残存能力の維持の観点から早期に看護課と連携した働きかけが必要であったと考える。

③1日のリハビリ対象者数の増加により、利用者様1名あたりのリハビリ提供時間を20分程度に収める必要性があり、利用者様とじっくり関わる時間を持ちにくくなったが、週3回のリハビリの中でメリハリをつけて利用者様のニーズを確実にとらえるように努めている。また、移動時間削減のため、各階にリハビリ室を作り、利用者様にも受け入れられている。

短期集中リハ加算の算定者は15名と昨年度の3名から大幅に増えたが、個別リハビリを週3回提供するようになってからの加算算定は2名に留まっている。

強化型施設の要件としてマンツーマンの個別リハビリが挙げられているため、10人未満の小集団活動は行われなくなっている。認知症の利用者様等にとっては、小集団の形態の方が安心感を得られる様子でありマンツーマン対応は小集団ほどに良いパフォーマンスを引き出しにくく感じられる。利用者様が安心できる空間作りが必要と考えられる。

④定期的なりハビリの見直しは行われていたが、療法士の意見を出し合って決定する場面は個別リハビリ業務の立て込みから時間が取れず、減少している。また、リハビリ室が分散されたことで他の療法士の関わり方を見る機会も減っている。

【通所】

リハビリ提供体制の変更により、20分の個別的な関りから1ループ1時間で最大10人のリハビリを業務分担して行った。

《メリット》

- ・準備体操をグループで行う事で、運動に対する意欲を相乗効果で引き出すことが出来る。
- ・マシントレーニングの時間や対象者を限定することなく提供できるようになった。
- ・通所リハビリに関わる療法士を減らすことができ、入所の個別リハビリの時間を圧迫することが少なくなった。

《デメリット》

- ・業務分担により、個別対応時よりもコミュニケーション時間に不足感があり、寂しさを感じている利用者様もいる。
- ・マシンが空くまでの待ち時間ができてしまい、座っての運動や机上課題等の提供をしているが自発的に行える利用者様に限られる。
- ・マシントレーニングに頼りがちで、個々の生活目標に合致する練習が疎かになりやすい。特に参加・活動や趣味活動等の取り組みは課題となっている。

①前年度と同様に移動時の能力評価を初回から利用4回目までに行い、移動の自立とリスク管理について通所職員と協力して取り組むことが出来ている。また、体調不良や再利用時にも再評価している。

②短期集中個別リハ加算は5名算定した。期間途中で体調不良などの理由により算定を中止される方もいた。相談員と連携し、ケアマネージャーへの状況報告を密にして対処することができていたと思う。

③歯科衛生士とのサービス提供の相違を確認し、言語聴覚士を必要とする方へのサービス提供を明確にし、計画して行っている。

④施設内での自主的に行える運動に関しては、リハ実施計画書に記載し、行っていただいている。自宅での自主トレーニングに関して希望があった場合は、口頭指導やプリント等での運動方法の提示を行っている。マシンに関しては自分のグループの時間外でも開放し、空いているときは使用出来るようにしている。また、自主トレ用に床面にラインを引いたり、机上課題の道具作成も行っている。今後も運動習慣を身に付けられるような道具や環境を整備し、活用できるように継続していけたらと思う。

【健康アップ教室】

年度途中より訪問リハビリセンターへ運営を移行した。

【その他】

- ①スムーズに通所担当と入所担当を1名ずつ交代することが出来た。
- ②新型コロナウイルス感染症拡大に伴い研修会が中止となり、研修参加はなかった。
- ③リハビリ業務の増加と新型コロナウイルス対策により実習の受け入れは行わなかった。

令和2年度 口腔衛生課 総括

1. 通所

口腔機能向上サービス利用者は、12～14名で推移している。また、全利用者様の口腔に対する相談にも対応出来ている。職員についても随時助言・指導を行う事が出来た。

2. 入所

口腔衛生管理体制加算・口腔衛生管理加算は、全利用者様へ対応する事が出来た。また、技術的助言及び指導と学習会を通して、職員への指導も行えている。

3. グループホーム

口腔衛生管理体制加算において月1回の訪問が出来ており、利用者様の口腔衛生向上に努めている。また、職員へも随時指導を行っている。

4. ラ・ボア・ラクテ

月2回の訪問を継続しており、利用者様の口腔衛生向上に努めている。訪問時は随時職員への助言を行い、口腔ケアの意識向上や技術向上に繋げている。

5. 関係医療機関との連携を図る

歯科治療の希望者には協力歯科医院の赤沢先生による往診治療を受け入れる体制にある。ご家族様との連絡や歯科医院への依頼を行い、往診時の準備・対応を行えている。また、利用者様やご家族様の希望で、すえひろ歯科医院とジュネスデンタルクリニックの対応も行っている。

6. その他

健康アップ教室利用者様に口腔ケア指導を行うことができた。

来年度に向けては自分たちのスキルアップを図り、介護職員への助言・指導に繋げていきたい。また、利用者様やご家族様の直接の相談にも対応出来るように努めていきたい。

令和 2年度 事務課 総括

1. 職場の環境作り

- ① 各課の垣根を越え、多くの職員とのコミュニケーションを取り、各課にまたがる問題等を横断的に解決するよう心掛けた。
- ② 仕事に対する充足感を得られるように、用がある時は事務課から出向き、現場第一で業務を遂行した。

2. 事務業務の共有化と標準化

- ① 業務上必要に応じての協力体制の構築に努めた。担当者がいなければ全く分からないといった事が無いようにした。
- ② 請求業務等や利用者様の預り金など、現金や数字を扱う業務が多いが、大きなミスはなく出来た。
- ③ 物品を購入する際も、値段の比較などをした上で購入した。消耗品の節約も含め継続していく。

3. 人材確保に向けた体制作り

- ① 人材確保に向けた、専門業者を利用したの広報活動を継続している。今後はホームページを一新し、求職者へよりアピール出来るものを作成する。

4. 地域貢献に向けた取り組み

- ① 高齢者くらしのサポートセンターで、町内に住む独居高齢者への安否確認を実施している。令和元年度の利用者は3名であった。
- ② 地域活動の「つどいの和 りんりん」を1年間実施。現在の登録者は14名。今後も継続していく。

5. 感染対策への取組み

- ① 新型コロナウイルス感染予防として、感染症緊急包括支援給付金を使用し、体温カメラや自動手洗い装置の取付け、業者の出入りのある備品庫の移動等を行った。

令和2年度 「施設管理部門」 総括

年間を通じて施設利用者の方々に安心かつ安全に過ごして頂ける様な環境作りを行う。

1. 施設経費の状況を把握する

- ① 水道の毎日の使用量計測と、1ヶ月の集計を実施し、その根拠を示す。

H18年より水道の日量使用量の計測を継続しており、1ヶ月のデータとその使用量の根拠は毎月、定例会の場で報告している。

- ② 水道、各種電気、燃料の使用量及び金額の前年対比とその分析を継続する。

各水光熱費の前年度対比及び分析

| 項目 | R元年度支払額 | R2年度支払額 | 金額の増減 | 前年度比(%) |
|---------|------------|------------|------------|---------|
| 水道 | 4,320,530 | 4,266,378 | -54,152 | 99% |
| 電気(施設) | 8,506,227 | 7,570,402 | -935,825 | 89% |
| 電気(駐車場) | 49,290 | 50,724 | -1,434 | 103% |
| 電気(融雪) | 199,086 | 261,132 | +62,046 | 131% |
| ガス(厨房) | 1,565,196 | 1,462,820 | -102,376 | 94% |
| ガス(乾燥機) | 577,173 | 588,345 | +11,172 | 102% |
| 重油 | 3,535,760 | 3,504,600 | -31,600 | 99% |
| 灯油 | 1,511,441 | 1,092,891 | -418,550 | 72% |
| 合計 | 20,264,703 | 18,797,292 | -1,467,411 | 93% |

令和2年度全体の水光熱費を総括すると、水道、ガス、重油は前年度と比較して大差ない値となっており、豪雪の影響で電気(融雪)が増加した。また、灯油の支払額が大幅に減少した。これは、灯油の単価が昨年度に比べて安かったことが要因と考えられる。

2. 車両関係

- ① 効率よりも安全を基本とし、人身・物損事故のゼロを目指す。

人身に関わる事故はなかったが、車両事故が5件発生し、昨年度よりは2件増加した。事故の内訳は、単独物損事故が2件、一般車両が関係しての事故が1件、施設敷地内での車両同士の事故が2件あった。次年度は事故ゼロを目指す、更に注意して運転業務にあたりたい。

- ② 数台の施設送迎車両が更新時期を控えているが、業務に支障が出ない様に計画的に更新を進める。

長期的な運用を考え、車両の更新については前々から計画し、送迎等の業務に支障がないように進める。

3. 設備の保守、作成

- ① コストに見合った物品の修理及び製作物の選定と実施を継続する。

あまり安価な物品や備品、消耗品、機器等は修理しても人件費に見合わないので、物によっては修理依頼された場合でも新規購入を継続した。

- ② 特殊技術や特殊工具使用等の設備、機器を除き、出来るだけ修理は部品のみの購入とする。

そして作業は自前で実施し、経費削減を更に強く推し進める。

自部署で修理可能な物件は、出来る限り材料や部品のみの購入とし、業者に依頼するケースを少なくするように努めた。特に水栓器具、加湿器等の電気器具等に至っては更に強く推進した。他に非常灯のバッテリー交換や溶接、特殊浴槽修理の継続。車両リフトの不具合とその幅を拡大している。更に年数の経過により入手不可能部品においては、異業種等に類似部品の調達や加工を依頼し調達する事もあった。

- ③ 効率かつ経済的なロードヒーティングの管理をする。

前項目：電気（融雪）に順ずる。

4. 環境整備関係

- ① 施設内外の清掃に努め、年1回の館内フロアワックス掛けと、年2回の全館内外の窓ガラス清掃を実施する。

新型コロナウイルス感染予防の為、今年度はフロアワックス掛けと全館内外の窓ガラス清掃は行わなかった。

掃除担当（3人）を配置しての館内の清掃は継続しており、通所リハビリテーション課や洗濯担当者の掃除負担を軽減出来ている。

- ② 芝生と植栽樹の維持管理を継続する。

前年同様に除草剤使用による雑草の抑制、芝生の刈り取り、石拾い等の管理をした。

- ③ 常に早めの作業に努め、安全かつ効率的な除雪を実施する。

例年になく大雪により、日々各所の雪寄せ、雪下ろしに追われる事になった。都度職員で話し合い、順序立てて除排雪を行ったが、1シーズンを通して非効率な点や方法（使用する機械や排雪する場所）が定まっていない事がみられたので、今後はその点を改善していきたい。

大雪の影響で数か所破損が発生してしまった。今後は優先順位を明確化し、効率的に除排雪作業を行っていききたい。除排雪中のけがや事故はなく、物損も発生しなかった。

5. その他

- ① 水道、電気等各種工事の際は最低でもインフラ面では、入居者様に不便をお掛けしない様に作業を進める。

経年劣化により、数か所で配管の漏水等による工事が必要となったが、日中出来ない水道や配管工事は夜間に、騒音が発生する作業は事前に昼に実施し、出来る限り入居者様の迷惑にならないように配慮した。

冬期間の例年以上の冷え込みにより、受水槽の配管凍結が数回発生し、入浴を中止して頂く日が出てしまった。配管周りのヒーターの経年劣化が原因で、ヒーターの交換を業者に依頼した事により、問題は解決している。今後は機械等の故障には迅速に対応し、ご利用者様へのサービス提供に影響がないようにしたい。

② 日頃の点検と経験、知識を活かし、時間外の突発的な設備異常の頻度を抑える。

時間外ではグループホームでの停電が2回、計装盤異常が1回発生し、対応した。昨年度の8回に対し、3回と減少しており、その回数は年々減少傾向にある。事前に不具合がみられる箇所の修繕・交換等を行う事で未然に防ぐ事が出来ていると感じる。

【 各種委員会関係 】

『給食改善委員会』

実績報告

- ①各専門職が食事形態や食べやすい食器等を検討する事が出来た。また、利用者様に旬の食材や地元の食材、食べ慣れたものの提供、嗜好調査を通して食べたいものを提供する事が出来た。
- ②衛生面に関しては各自注意しながら提供することが出来た。しかし、異物混入や誤配膳等を完全には防ぐことは出来なかった。反省・改善を踏まえ今後、安心・安全な食事提供に努めていく。
- ③各職種と連携しながら利用者様の状態把握、食事内容・食事形態の検討を行うことが出来た。

『家庭介護者教室運営委員会』

実績報告

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、例年通りのご家族様を施設に迎えての教室を開催する事は出来なかった。

その替わりとして利用者様、ご家族様へ向けて情報を発信するお便りを3回発行した。

内容については下記のとおり

第1回：屋内で出来る体操、職員紹介

第2回：食事の際の正しい姿勢・ポジショニング、栄養について、家庭で活かせる食べやすい工夫、りんごの里人気レシピ

第3回：老化による機能低下・運動による効果、口腔機能(嚥下・発生)の低下と老化、認知症のについて

次年度も新型コロナウイルス感染予防の観点から、以前のような教室の開催は難しいと思われるので、今年度に引き続きお便りの発行で情報提供していきたい。内容については、利用者様、ご家族様にとって有益な情報をお届け出来るよう、委員会メンバーで十分に話し合っていきたいと考えている。

『行事委員会』

実績報告

コロナウイルスにより、外出企画や外部からの慰問が行えなかったが、職員による出し物を実施し、気分転換の場を提供することが出来た。夏祭りは中止になってしまったが打ち上げ花火は実施でき、好評であった。

委員会に人が集まらず、各課との連携や調整が不十分になってしまうことがあった為改善をしていきたい。一年を通しての行事企画は外出や慰問が行えないことにより減ってしまった。次年度は、感染対策を重視しつつも安全で楽しい新しい行事を計画できればと考えている。

『感染対策委員会』

実績報告

1. 施設内の日常の感染予防については、チェックシートの記入による実施の有無の確認を継続している。定期的なラウンドによりチェックを実施することについては、十分ではなかった為今後も継続して取り組み、施設内の問題について明確にしたい。

2. 定期的学習会については、新型コロナウイルスへの対応について外部講師（医師会主催）による学習会を実施することができた。
3. 外部の研修については、新型コロナウイルスへの対応が流動的である為、情報の取得に努め、開催時には積極的に参加する。
4. 新型コロナウイルス対策について、各種備品等を購入し感染予防に努めた。
ご家族との面会については、直接会わず予約制のオンラインでの面会で対応した。
施設内へのウイルスの持ち込みを防止するため、職員一人一人が十分に意識をする必要があるため、マメール（職員連絡用メール）にて都度の情報と注意喚起を行った。
常時マスクの着用、手すりやリハビリ機器等利用者様が触れる場所の消毒を実施。またチェック表管理で定期的な喚起を実施している。 今後も感染対策を徹底していく。

『環境サービス向上委員会』

実績報告

1. 施設の臭気・美化について
 - ① 居室等の各フロアにおいて定期的に芳香剤の交換を実施することが出来た。
より効き目を発揮する為、芳香剤の種類を液体からビーズ状のものに変更した。
また、ポータブルトイレの保管場所やフォーレ使用されている利用者様の居室への設置などきめ細かい対応をする事が出来た。
 - ② 年2回の職員下駄箱清掃を実施出来た。
梅雨の終わる時期や春先など、効率的に清掃が行える時期に変更した。
 - ③ 居室・トイレ等の芳香剤の交換を定期的に行うことができた。
2. サービスの向上について
 - ① ご家族様アンケート(入所・通所)で利用者様・ご家族様より回答を頂き、サービスの向上に努めた。
 - ② 職員自己評価アンケートを実施した。
 - ③ 年2回の学習会を実施した。(5月：接遇、1月：アンケート結果報告・接遇)

次年度も継続して臭気・美化についてきめ細かい対応に努めていきたい。
また、今年度は2回とも学習会の内容を接遇について行い、職員の意識向上に努めた。
次年度もアンケートの結果を生かした内容にし、求められるサービスが提供出来るように努めていきたい。

『褥瘡対策委員会』

実績報告

今期は、学習会が中止になり褥瘡予防やポジショニングについて上手く伝えることが出来なかった。また、委員会の開催も不定期となり、前年度には発生していなかった褥瘡が2件も発生してしまった。
ケア用品の劣化や不足も目立つが、各専門職種の意見やアドバイスで補えていたと思う。
次年度は、新たに購入したエアマットや現行の軟膏類を有効に使用し、褥瘡予防に努めていきたい。

『高齢者虐待防止委員会・身体拘束廃止委員会』

実績報告

アンケートの内容をもとに全職員の認識を共有し、施設全体での虐待防止が行えるような勉強会を行った。全職員が虐待の基礎的な知識を持って現場に生かせるよう、次年度も委員会より発信していきたい。

『事故発生防止委員会』

1. 転倒及び事故発生状況

| 種別 | 転倒 | 誤嚥 | 誤薬 | 経管トラブル | 皮膚トラブル | 異食 | その他 | 累計 |
|-------|-----|-----|-----|--------|--------|-----|-----|------|
| H31年度 | 59件 | 1件 | 0件 | 2件 | 24件 | 0件 | 1件 | 87件 |
| R2年度 | 53件 | 1件 | 4件 | 4件 | 31件 | 0件 | 5件 | 98件 |
| 対比 | -6件 | ±0件 | +4件 | +2件 | +7件 | ±0件 | +4件 | +11件 |

| 場所 | 居室 | 食堂 | 廊下 | 脱衣所 | 浴室 | トイレ | 静養室 | その他 | 累計 |
|-------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| H31年度 | 36件 | 13件 | 9件 | 4件 | 8件 | 11件 | 2件 | 4件 | 87件 |
| R2年度 | 46件 | 18件 | 6件 | 5件 | 8件 | 7件 | 0件 | 8件 | 98件 |
| 対比 | +10件 | +5件 | -3件 | +1件 | ±0件 | -4件 | -2件 | +4件 | +11件 |

| 時間帯 | 午前(6:00~12:00) | 午後(12:00~18:00) | 夜(18:00~24:00) | 深夜(0:00~6:00) | 不明 |
|-------|----------------|-----------------|----------------|---------------|-----|
| H31年度 | 32件 | 33件 | 12件 | 10件 | 0件 |
| R2年度 | 31件 | 37件 | 14件 | 16件 | 0件 |
| 対比 | -1件 | +4件 | +2件 | +6件 | ±0件 |

2. 総括

前年度よりトラブルが増加した。発生状況は前年度同様で転倒が最多であり、次いで皮膚トラブルが多かった。

発生場所は居室が増加し、廊下・トイレが減少した。時間帯などを含めて考察すると日中の時間帯に居室での転倒事故が多く発生している事となる為、次年度の参考とする。

- ・誤薬のトラブルが4件発生している。誤薬トラブルは職員による不注意などによる過失が大きく、また利用者様の体調を損ねることになる為、最大限の注意と対応策を講じていたが、対応策の風化や他業務を優先する事での簡略化が招いた結果である。次年度は風化や簡略化のない様に注意喚起していく必要がある。

- ・骨折を伴うトラブルも例年よりも多く発生してしまった。骨粗鬆症の進行により骨が脆く、以前にも骨折してしまった方が再発しまったケースや自立の方が転倒によって骨折されるケースがあった。骨粗鬆症や転倒リスクの学習会を定期的で開催し、知識や注意力の向上を図る必要があると感じた。

- ・委員会での活動として、定期的な会議内で発生状況報告、リスクカンファレンス（入所、通所を併用している方を対象）福祉用具の定期点検を、年間を通して行う事ができた。

- ・紛争に結びつく事例はなく、対応チームは発足しなかった。

『衛生委員会』

実績報告

- ・腰痛予防やメンタルヘルスについて、全体学習会や資料配布等で労働災害に対する注意喚起が出来た。
- ・昨年度実施した職場内や通勤時に労災に発展しそうな危険個所・事例の洗い出し（職員玄関に掲示）を行い危険個所の見える化の継続を行い、危険個所については修繕や改修を行った。

また、各事業所の職場環境チェックを1ヶ月に1回実施し、労働災害に繋がる可能性がある環境を早期に改善できた。また、凍結による転倒など、季節ごとに注意が必要な労働災害についても注意喚起できるよう、ポスター掲示等を行った。

『防災対策委員会』

実績報告

1. 非常災害時安否確認メール訓練の実施
メール送信訓練を実施したが、適切にメールが受信されない、又返信が来ない職員が相当数いた。全職員のマメール(災害時等一斉配信用メール)登録を周知し有事の際に必要なツールであることを今一度啓蒙していく。
2. 定期的な非常用物品の点検及び整理
備蓄庫及び施設内非常用物品の確認を実施した。また。電気火災予防として全館のコンセントの埃を確認、状況に応じて清掃を実施した。
非常用備品で不足している物品(カセットコンロ等)を購入した。
3. 防災マニュアルの定期的な見直し、作成
委員会でマニュアルを確認し、わかりやすいフローチャートの作成。職員へ周知した。
4. 消防設備、機器の把握と使用手順の周知徹底
避難訓練時に消火器及び屋内消火栓を使用しての消火訓練、非常放送設備での館内放送、自動火災通報装置での通報連絡及び物干し棒と毛布等を利用しての簡易タンカの作成訓練を実施した。
5. 全職員の避難訓練の参加により、火災発生時の対応を体得する。
年2回の避難訓練を実施し、できる限り訓練経験のない職員を優先して参加させている。
6. 年間防災計画に基づいた各種点検、訓練の実施
法定の消防設備点検を専門業者に依頼し機器点検及び総合点検を実施した。防災避難訓練を消防署指導の下、日中想定、夜間想定の2回実施した。

研修・出張の実施状況

| 参加年月日 | 研修内容 | 場所 | 参加者 |
|-----------------------|---|-----------------|-------|
| 令和 2年 7月20日 | マイナビ WEBセミナー | オンライン | 林 一輝 |
| 8月 8日 | 新型コロナウイルス感染症対策説明会 | 横手市 | 齋藤 佳子 |
| 10月17日 | 令和2年度主任介護支援専門員に対する 指導力など向上研修 ～ファシリテーション～ | オンライン Zoom参加 | 佐藤 弥生 |
| 11月16日、17日 19日、20日 | 令和2年度介護支援専門員更新研修 | オンライン | 黒坂 義広 |

職員学習会の実施状況

『 4月・6月・8月・11月・2月は各課 5月・7月・10月・12月・1月・3月は全課合同 』

【介護課】

| 開催年月日 | 研修内容 | 参加人数 |
|-------------|------------------------|------|
| 令和 2年 4月27日 | 口腔ケアの手技 口腔ケアにおける注意点 | 12名 |
| 令和 2年 6月29日 | 骨粗鬆症への理解 | 7名 |
| 令和 2年 8月31日 | 誤嚥を防ぐ 窒息時の対応 | 9名 |

【通所リハビリテーション課】

| 開催年月日 | 研修内容 | 参加人数 |
|-------------|---------------------------------|------|
| 令和 2年 4月16日 | 高齢者の身体的・精神的状況について 高齢者疑似体験 | 12名 |
| 令和 2年 6月24日 | 食中毒予防と熱中症対策について | 12名 |
| 令和 2年 8月26日 | リクライニング車いすの固定方法 送迎車輛の車いす乗車体験 | 13名 |
| 令和 2年10月28日 | マシンの名前と効力、操作方法について | 11名 |
| 令和 2年12月23日 | 接遇とは 介護で身につけるべき接遇のポイント | 11名 |

【全課合同】

| 開催年月日 | 研修内容 | 参加人数 |
|-----------------------|---|------|
| 令和 2年 5月25日 | KYT (危険予知訓練) の実施 昨年度の転倒及び事故発生件数の報告と考察 接遇マナーについて | 33名 |
| 令和 2年 6月17日 ～6月19日 | 電話対応について | 12名 |
| 令和 2年 7月27日 | 身体拘束について 新型コロナウイルスについて 感染症及び食中毒の予防と蔓延防止について | 43名 |
| 令和 2年 9月11日 | 福祉施設向け新型コロナウイルス感染症対策出前ワークショップ | 42名 |

年間行事計画の実施状況

| 実施年月日 | 行事名 | 場所 | 具体的目標 | 主な内容 |
|--------------------------|-------|--------|------------------------|-------------------------|
| 令和 2年 4月 24日 | 和菓子提供 | 施設内 | 季節感を味わう行事を提供 | 季節の和菓子提供 (桜の形の練り切り) |
| 令和 2年 7月 31日 | 和菓子提供 | 施設内 | 季節感を味わう行事を提供 | 季節の和菓子提供 (水ようかん) |
| 令和 2年 8月 7日 | 屋内夏祭り | 施設内 | 季節感を味わう行事を提供 | すいか割り |
| 令和 2年 8月 28日 | 花火大会 | 施設駐車場 | 季節感を味わう行事を提供 | 花火鑑賞 |
| 令和 2年 9月 27日 | 敬老会 | 施設各フロア | 長寿の表彰式 お互いの長寿と一緒に祝う | 職員による出し物 |
| 令和 2年 10月 22日 | 和菓子提供 | 施設内 | 季節感を味わう行事を提供 | 季節の和菓子提供 (柿の形の練り切り) |
| 令和 2年 12月 27日 12月 28日 | 餅つき大会 | 施設各フロア | 他利用者との交流を深め、季節感を楽しんで頂く | 餅つき、鏡もち作り |
| 令和 3年 1月 13日 | 生菓子提供 | 施設内 | 季節感を味わう行事を提供 | 季節の生菓子提供 (干支の牛のどら焼き) |
| 令和 3年 2月 2日 | 節分行事 | 施設各フロア | 他利用者との交流を深め、季節感を楽しんで頂く | 利用者と一緒に豆まき |

慰問・ボランティア・実習等の状況

| 視察・慰問年月日 | 視 察 ・ 慰 問 者 名 | 備 考 |
|----------|--------------------|-----|
| 令和 2年 | コロナウイルス感染予防の為、実績なし | |

防災計画の状況

令和2年 年間計画の実施状況

防災避難訓練（日中訓練）

| 実 施 日 | 参 加 者 数 | 主 な 内 容 |
|------------------------------|---|--|
| 令和 2年 6月17日 午後2時10分～2時35分 | 職員総数 33名 横手消防署南分署員 0名 ※新型コロナウイルス感染予防 の為不参加 セフティ 2名 利用者様 4名 | 通報連絡訓練 避難誘導訓練 消火活動に使用する設備・器具 の取扱い訓練 屋内消火栓操作法訓練 |

防災避難訓練（夜間想定訓練）

| 実 施 日 | 参 加 者 数 | 主 な 内 容 |
|------------------------------|---|--|
| 令和 2年10月21日 午後2時10分～2時50分 | 職員総数 20名 横手消防署南分署員 4名 セコム 1名 利用者様 6名 | 通報連絡訓練 避難誘導訓練 消火訓練 屋内消火栓操作法訓練 |

防災対策自主点検

| | |
|------|--------------|
| 保守点検 | 年 2回 (3月、9月) |
| 自主点検 | 月 1回 |
| 防災点検 | 毎日1回 |

上記の点検等は令和2年度同様令和3年度も実施整備する。

令和2年度 グループホームひだまりの家 総括

今年度の入退去状況は、入院での退所が1件、逝去が2件であった。長期の入院は2件あり、共にひと月程度の入院であった。空きが出来てから比較的早期に新しい入居者様が決まったが、診断書の作成に時間がかかり空床の期間が出来てしまった。例年と比べると動きの少ない一年であった。

職員関係では、退職者や傷病による長期休業で勤務体制の維持が非常に困難であったが、職員の積極的な協力により、サービス提供体制を維持することができた。今年度は介護福祉士試験の受験者はおらず、介護支援専門員に1名が合格した。認知症介護実践者研修と認知症サービス管理者研修に1名ずつ派遣する事が出来た。

新型コロナウイルスの影響で、増田小学校様や増田保育園様と交流する機会が持てなかった。外出や外泊、面会など様々な場面で入居者様やご家族様に対して制限せざるを得ない状況下であり、多大なるご負担を掛けてしまった。また運営推進会議も、面会を制限させて頂いている状況を考慮し、例年通りには開催できなかった。慰問やボランティア等の外部の方がグループホーム内に入る機会が極端に減ってしまい、理念のひとつである【地域とのふれあいを大切にする暮らし】と向き合うことが非常に困難であった。

感染症への意識を職員全体で強く意識してきたことで、新型コロナウイルスワクチンは勿論インフルエンザや食中毒に誰一人罹患することなく、風邪症状で欠勤となる職員もいなかった。また、入居者様に対しても外出の制限等で精神的なストレスを掛けてしまっている事を考え、職員が積極的に室内で行事を企画し、実践できていた為コロナ禍による入居者様への精神的な影響は軽減出来たと思われる。

【 各種委員会関係 】

『食事・厚生委員会』

実績報告

1. 日々の調理を入居者様と協力しながら行うことが出来た。旬な食材の調理方法などを入居者様に教えてもらいながら提供する事ができた。
2. 糖分や塩分への配慮を徹底して行うことが出来なかった。
3. 食中毒に注意を払いながら行うことが出来た。
4. 食事を通じたユニット間の交流は行うことができなかった。

『企画委員会』

実績報告

新型コロナウイルス感染予防の為、例年開催しているバーベキューや芋煮会、また慰問を開催する事が出来なかったが、施設内で行える行事は例年通りに開催することが出来た。また、試験的にテレビゲームを導入し実践してみたが、入居者様の興味を継続する事は非常に困難であった。

『環境美化委員会』

実績報告

1. ほぼ計画通りに実施する事が出来たが、生け花に関しては計画通りの2か月に1回のペースで開催出来なかった。
2. 入居者様と協力し、農作物を栽培する事ができた。しかし、職員の得手不得手により限られた職員に依存してまった。
3. コロナ禍もあり、今年度は募金活動が出来なかった。

『事故発生防止委員会』

実績報告

1. 学習会やトラブル発生時に、カンファレンスにおいて行動を制限してしまうケアの危険性について周知していった。
2. 研修会にて危険予知トレーニングを開催することが出来なかった。

『業務改善・研修委員会』

実績報告

1. ヒヤリハットの報告数が少なく、全職員が記録しやすい環境作りが出来なかった。
2. コロナ禍の影響で行事自体が少なく、ユニット合同の行事も例年と比較して多くは開催出来なかった。
3. 聞き取りを実施し、職員の意見を研修計画へ反映する事が出来た。

『広報・介護機器検討委員会』

実績報告

1. 広報誌は、期限を守って発送することができた。ひだまり通信も写真を多く使用し、ご家族様に入居者様のご様子をより詳しくお伝えする事が出来た。

2. 介護機器の定期的な点検、メンテナンスを実施し、それが原因となるトラブルが発生する事もなかった。

『感染対策委員会』

実績報告

1. 新型コロナウイルス感染予防の為、面会や外出を長期に渡り制限させて頂いている。また、勤務中のマスクの着用などの基本的な感染対策により、新型コロナウイルスはもちろん、インフルエンザや食中毒が持ち込まれる事はなかった。職員の風邪症状などでの欠勤もほとんどなく、皆緊張感をもって対応出来た。

『計画作成担当委員会』

実績報告

1. アセスメントの徹底や、他業種との連携、ご家族様のご理解・ご協力により無理のない範囲を見極め、作成出来た。また、入居者様の願い・思いを第一に考えたケアプランが作成出来た。
2. 日常生活の中から必要なケアを検討し、ケアプランに反映出来た。
3. ご家族様に対して可能な範囲での協力を依頼し、社会資源の一つすることでサービス範囲を広げる事が出来た。ニーズに見合った目標設定が出来ていると思われる。
4. ご家族様に対しサービス提供の対象は入居者様であり、ご家族様には様々な協力を依頼する場面が出てくる可能性がある事を伝えている。今後も入居者様の要望を第一に考えていきたい。

『高齢者虐待防止委員会』

実績報告

1. 学習会を開催し、高齢者虐待防止についての理解を深める事が出来た。
2. アンケートを実施し、自らの考えと他職員の考えを照らし合わせる機会が持てた。

『身体拘束廃止委員会』

実績報告

1. 研修会を通じて身体拘束がもたらす弊害を理解し、問題意識の共有が図れた。
2. 不適切なケアとなっていないかチェックを実施し、自らのケアを振り返る機会がもてた。また、他職員のチェックを共有する事で別の視点からも意識する事ができた。

年間行事計画の実施状況

| 実施年月日 | 行事名 | 場所 | 具体的目標 |
|-----------------------|--------------|---------------------------------|---------------------------------------|
| 令和2年 4月21日 ～5月17日 | お花見ドライブ | ひなた敷地 真人公園 梨の木公園 東成瀬方面 | 入居者同士の交流を図る。 季節感を味わう行事を提供。 |
| 令和 2年 4月25日 5月 3日 | 流しそうめん | ひだまりの家 | イベントとして開催しいつもとは違う雰囲気の中、食事を楽しんでいただく。 |
| 令和 2年 6月 2日 | カラオケ大会 | ひだまりの家 | 入居者同士の交流を図る。 |
| 令和 2年 6月 6日 | あやめ見学 | 浅舞公園 | 季節感を味わう行事を提供。 |
| 令和 2年 6月12日 | 駄菓子屋開催 | ひだまりの家 | 入居者様の背景を活かした行事を行うことで入居者様同士の交流を図る。 |
| 令和 2年 6月27日 | ケーキバイキング | ひだまりの家 | 父の日のイベントとして開催。季節感を感じていただき、入居者様の交流を図る。 |
| 令和 2年 6月27日 | 笹巻づくり | 湯沢市 | 入居者同士の交流を図る。 |
| 令和 2年 8月24日 | 納涼祭（単独） | ひだまりの家 | 入居者同士の交流を図る。 季節感を味わう行事を提供。 |
| 令和 2年 8月28日 | 花火鑑賞（りんごの里） | りんごの里 | 季節感を味わう行事を提供。 |
| 令和 2年 9月21日 | 敬老会 | ひだまりの家 | 入居者同士の交流を図る。 季節感を味わう行事を提供。 |
| 令和 2年 9月25日 | 秋の味覚を楽しむ会 | ひだまりの家 | 入居者同士の交流を図る。 季節感を味わう行事を提供。 |
| 令和 2年10月 3日 | 交流会 | ひだまりの家 | 入居者同士の交流を図る。 |
| 令和 2年10月25日 ～11月8日 | 紅葉見学 | 東成瀬方面 | 入居者同士の交流を図る。季節感を味わう。 |
| 令和 2年12月25日 | クリスマス会 | ひだまりの家 | ユニットの入居者同士の交流を図る。 季節感を味わう。 |
| 令和 2年12月 30日 | もちつき | ひだまりの家 | ユニットの入居者同士の交流を図る。 季節感を味わう。 |
| 令和 3年 1月17日 | 新年会 | ひだまりの家 | ユニットの入居者同士の交流を図る。 季節感を味わう。 |
| 令和 3年 2月13日 | かまくら見学（ドライブ） | 横手市内 | ユニットの入居者同士の交流を図る。 季節感を味わう。 |

「グループホーム ひだまりの家」

慰問・ボランティア・実習等の状況

| 視察・慰問年月日 | 視 察 ・ 慰 問 者 名 | 備 考 |
|----------|--------------------|-----|
| 令和 2年 | コロナウイルス感染予防の為、実績なし | |

防災計画の状況

令和2年度 年間計画の実施状況

防災避難訓練（日中訓練）

| 実施日 | 参加者数 | 主な内容 |
|-----------------------------|-------------------------------|--------------------------|
| 令和2年 6月17日 午後1時30分～1時45分 | 職員総数 7名 羽後電設 1名 入居者 18名 | 消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練 |

防災避難訓練（夜間想定訓練）

| 実施日 | 参加者数 | 主な内容 |
|-----------------------------|--|--------------------------|
| 令和2年10月21日 午後1時30分～1時45分 | 職員総数 3名 増田分署 4名 入居者 18名 羽後電設工業 1名 セコム 1名 | 消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練 |

防災対策自主点検

| | |
|------|-------------|
| 保守点検 | 年 1回 (3月) |
|------|-------------|

上記の点検等は令和2年度同様令和3年度も実施整備する。

令和2年度 グループホームひなたの家 総括

今年度は、新型コロナウイルス感染対策のため、本来の活動が制限されるというこれまでにない困難な状況の中で、少しでも入居者様の QOL（生活の質）が向上するよう努めた一年であった。

今年度は、理念に基づきつつ入居者様の意向に沿った室内での活動の充実と、一人一人の尊厳を大切にされたケアの実践に努めた。

感染対策のため外部とは接触ができない状況であり、面会や外出支援などが制限される中で、入居者様の楽しみが増えるよう室内の活動の充実に重点を置いた。その中でも特に好評をいただいたのが、季節感のあるものや嗜好品の提供など食に関する企画であった。「○○の日」といったイベントを多く企画し、メニューはもちろん室内の装飾や職員の服装までこだわった会を開催、入居者様には大変喜んでいただいた。コロナ禍でご家族様の面会も困難な状況のため、月一回送付するお便りで生活の状況が詳細に分かるよう、特別な場面だけでなく日々の生活の写真を多く載せ、ご家族様の安心感に繋がるよう努めた。これもご家族様に喜んで頂く事が出来た。

また、一人一人の尊厳を守るケアの実践としては、虐待防止と身体的拘束廃止の取り組みとして、その前段階にある「不適切ケア」の防止に努めた。自己チェック表を作成、40項目について毎月全員が反省を行い、チェックした項目については翌月の自己の重点項目とし、改善に努めた。チェックが多かった項目については会議で取り上げ、全員が意識してよりよい対応が行えるよう働きかけを行った。チェックの数は、開始当初より格段に少なくなり、職員一人一人の意識付けに繋がられたと思う。これについては今後も継続し、適切なケアを確実に提供できることを目指したい。

入居者様関係では、短期間の入院以外は空床がなく、入退居の動きが全くない安定した一年であった。入居者様の状態も大きなレベル低下や体調不良もなく、比較的落ち着いた状態で経過した。現在は待機者も確保できているが、今後も関係機関と情報交換を行うとともに、入居者様の状態の把握、体調管理、安全管理をしっかりと行っていきたい。

今年度は、外部評価の年にあたり調査機関から調査員の訪問調査があったが、感染対策を十分に行った上で実施した。ケアに関する指摘はなく、発電機の使用法の周知のみの指摘があった。全員が習得できるよう定期的に確認を行い、万が一に備えたい。

現時点では新型コロナウイルスの終息の見通しが見えない状態であり、引き続き感染対策を徹底し、このような状況の中でも可能な限り入居者様の QOL（生活の質）が向上するようサービスの質の向上を図っていきたい。また、地域やご家族様より信頼されるグループホームとなるよう、職員の知識、技術、資質の向上に努め、研鑽を重ねていきたい。

【 各種委員会関係 】

『事故発生防止委員会』

(活動方針)

1. 事故を未然に防止できるように働きかけを行っていく。
 - ①毎月の事故、ひやりはっとの集計、分析を行い、事故予防に役立てる。
 - ②勉強会を開催し、発生した事故についての事例検討を行い、事故発生防止につなげる。
 - ③ひやりはっと報告書を積極的にあげてもらえるよう働きかけを行う。
 - ④気づいたことは周知に努め、事故防止につなげる。
2. 発生した事故の対応策の徹底を図る。
 - ①ひなた会議で、事故やひやりはっとの原因や対応策の再確認を行い、再発防止に努める。
 - ②事故発生後、対応策が実施されているか随時点検を行う。

(総括)

- 1-① 毎月集計や分析を行ってはいたが、同じようなひやりはっとや事故が多かった。細かく結果の周知を図る必要があった。
 - ② 勉強会を開催、参加できなかった人には資料を配布、記録を見てもらったが、参加できない人にも事前に事例検討の内容を提出してもらい、全員での検討も必要だと思った。
 - ③ ひやりはっとが全体的に少なく、積極的な働きかけができていなかった。
 - ④ 気づいたことは連絡ノートに記載し、事故防止に努めた。
- ① ひなた会議では毎回事故やひやりはっとについて取り上げ、内容・原因・対応策について再確認を行い、再発防止に努めた。
- 2-② 随時の点検まではいかなかったが、再発の可能性のある事故等は会議にて対応策の確認を行った。

『食事委員会』

(活動方針)

1. 食事提供について
 - ①食事形態や食事用具の使用について、随時見直しを行い、一人一人に合わせた食事提供を行う。
 - ②安全でおいしく、また楽しんで食べて頂けるような食事提供を行う。
 - ③入居者様の出来る力を生かすため、調理やおやつ作りに出来るだけ参加して頂けるように働きかけを行う。
 - ④季節を感じられるような献立、食材選びを行う。
2. 経費節減について
 - ①消費期限を確認して日付の早いものを先に使用するよう努める。
 - ②誕生会などは、昼食やおやつのどちらかに重点を置き、経費を考慮して計画する。
 - ③日頃より、費用対効果を考慮しながら食事作りを行う。
3. 行事食について
 - ①行事食を通して楽しみながら食事をする機会を提供する。

(総括)

- 1-① 入居者様の状態に合わせて提供出来ていた。
 - ② 彩りや硬さなど気配りを行った食事提供が出来ていた。
 - ③ 入居者様の出来る力に合わせて、下処理や盛り付け、デザート作り等に参加して頂いた。
 - ④ 経済的なことを考慮しつつ、可能な限り季節が感じられるような献立や食材選びを行った。
- 2-① 消費期限を確認せずに上から使用することが多かったので、日付の古いものが残ってしまうことがあった。購入後冷蔵庫に入れるときは、新しいものは下に入れるよう呼びかけたい。
 - ② 誕生会については昼食あるいはおやつのどちらかに重点を置いた食事提供が出来ていた。
 - ③ もらいものなどを活用したり、工夫を凝らす等費用的なことを考慮した食事作りが出来ていた。
3. 行事担当者が企画立て、行事に合わせた食事を提供出来ていた。お品書きを作ったり、職員の服装を工夫したり、室内の装飾を行うなどの雰囲気づくりを行い、食事を楽しんでいただけるよう努めた。

『行事委員会』

(活動方針)

1. 行事内容の企画、開催、まとめをスムーズに行う。
 - ①実施内容をファイルにまとめ、申し送りが確実に出来るようにする。
 - ②担当者が責任をもって行事を行えるようにする。
 - ③担当者への周知を早めに行うとともに進捗状況の確認を行う。
 - ④新たな行事、(ボランティア等)を企画する。

(総括)

- 1-① 行事内容は、よくまとめられていた。
 - ② 一部の行事では担当者がいまいで、準備が遅れたケースがあったが、その他の行事では、呼びかけで確認、実施できていた。
 - ③ 一部周知が遅れたケースがあったが、ほぼ実施できていた。外出自粛で大掛かりな行事がなく、準備は買い物、当日の流れの確認で済んでいた。
 - ④ コロナ禍の中、室内活動、食事関係の行事の充実に努めた。

『計画作成委員会』

(活動方針)

1. 入居者様ひとり一人に合ったきめ細かいプランを作成する。
 - ①入居者様、ご家族の要望を反映させたケアプランを作成する。
 - ②プランの内容の浸透を図り、確実に実行できるように働きかける。
 - ③状態に合わせて、随時プランの見直しを行う。
 - ④地域資源を活用し、入居者様の QOL (生活の質) を高められるようなプランの作成を行う。

(総括)

- 1-① 入居者様、ご家族から要望の聞き取りを行い、それをプランに反映させることができた。
 - ② プランの更新時、変更点や重点等についてひなた会議にて伝え、周知を図った。
 - ③ 状態が変化した場合は、随時見直しを行った。

- ④ 新型コロナウイルス感染対策のため積極的な活動は行えなかったが、ご家族様や友人も地域資源と捉え、可能な限り希望に沿った交流が図れるようなプラン作成を行った。

『広報委員会』

(活動方針)

1. 認知症についての知識や、ひなたの家の取り組みについて理解を深められるような内容とする。
2. 認知症について地域の方々が関心のある内容、及び認知症についての新しい情報を提供できるような紙面づくりを行う。

(総括)

1. 毎号、おもて面を認知症に関するテーマとし、分かりやすい文章にすることで、理解を深めて頂けるように努めた。
2. 地域の方々の関心ある内容について把握が難しかった。

『感染対策委員会』

(活動方針)

感染症に関する知識を深め、予防対策について周知徹底し、感染防止に努めていく。

1. ホームに入る時、うがい、ケア前後の手指の消毒、流水による手洗いを徹底できるように働きかける。
2. 咳やくしゃみなどの症状がある場合は、マスクを着用する。症状のある外来者の面会は遠慮していただく。
3. 勉強会を開催し、感染症の知識及び予防、発生した場合の対応等を学ぶ機会を作る。

(総括)

1. 令和2年度はほぼ外出等の機会はなかったが、外出後は、うがい・手指消毒・手洗いは出来ていた。
2. 風邪に近い症状が見られた入居者様がいらっしゃったがマスクの着用が困難であったため、まん延させないよう、できるだけ居室で過ごして頂き、フロアなどの人の集まる場所には長くいないようにして頂いた。
3. 勉強会で感染症について学ぶ機会を作り、感染症の知識及び発生した場合の対応等について再確認をすることが出来た。

『環境美化委員会』

(活動方針)

1. 掃除の徹底

① 毎日の清掃について

居室清掃及び清掃箇所はリネン交換時に行う。

- ・なるべく入居者様と一緒に掃除を行う。(個々に合った作業をして頂く)
- ・2か月に一回はタンスの裏も清掃を行う。

② コンセント清掃を月一回行えるように働きかける。

③ 大掃除(8月・12月)

- ・チェックシートを作成し、掃除箇所が漏れなく行えるようにする。

④玄関の蜘蛛の巣取りは玄関清掃時、随時行うようにする。(日勤)

2. 緑化の強化

①観葉植物、野菜の苗の植え方や水やりなどを入居者様と一緒にを行う。

②野菜の収穫を入居者様と一緒にを行い、収穫の喜びを共有する。

3. 家庭的な雰囲気づくりに努める。

①季節に応じた装飾を行う。

②余暇活動時にクラフト作り、書道等を行い、室内の装飾等で家庭的な雰囲気を作っていく。

(総括)

1-① なるべく一緒に行って頂けるように声がけをし、モップ掛けや掃除機かけなど行ってもらった。

自発的に行って下さった入居者様もおられ、気分転換にもなったのではないかと思います。タンスの裏の掃除は、タンスの上のものを寄せて行わなければならず、また時間もかかるため行うことは少なかった。

② コンセント清掃は、チェックシートを作成し実行できた。

③ 大掃除について、余裕をもって7月、11月と早めにチェックシートを作成し呼び掛けた。出来る箇所から早めに行ってもらい、皆で協力して行うことができた。

④ 日勤帯に出勤した職員が自発的に蜘蛛の巣取りを行ってくれた。

2-① 入居者様と一緒に土に触れて楽しみながら行うことができたので、これからも継続したい。天候にも恵まれ、苗の生育もよく晩秋まで花を楽しむことができた。気温が高い日が多く、一緒に水やりをする機会が少なかったのが残念だった。

② 野菜の生育もよく、入居者様と収穫の喜びを共有することができた。食卓に上り、皆で味わう事が出来たので良かった。

③ クラフト制作の年間計画を立てたが、材料の準備に時間がかかり計画通りにできなかったが、入居者様と一緒に楽しんで作業ができたので良かったと思う。完成した作品をバックに入居者様一人一人写真をとおり、お便りに乗せることができた。また、フロアに飾ることによって季節を感じていただけたと思う。

3-② 書道も季節にちなんだ作品を題材に書いていただき、廊下に飾り、季節を感じて頂けるようにした。出来るだけ明るく家庭的な雰囲気になるような装飾ができるよう心掛けたい。

『身体拘束廃止委員会』

(活動方針)

身体拘束廃止について理解を深め、身体拘束をしない介護を実践する。

1. 「不適切なケア」を防止し、身体拘束や虐待が発生しないよう努める。

①不適切なケアについての意識統一を図り、不適切ケアの排除に努める。

・日頃のケアについて、不適切なケアがないか各自チェックを行う。

・「不適切なケア」が発生したら「適切なケア」について全員の意見を募り対応の統一を図る。

②勉強会を開催し、身体拘束についての具体的な内容や弊害、万が一の場合の手続きについて学ぶ機会を作り、その内容を周知する。

③委員会を3ヶ月に一回以上開催し、次のことについて検討し、その内容を周知する。

・マニュアルの見直し

・勉強会の内容の検討

・研修会への参加の検討

・身体拘束につながる対応がないか、尊厳のあるケアが行われているか日常的ケアを確認する。

(総括)

- 1-① 「不適切ケアの自己チェック表」を作成、毎月自己のケアの点検を行う機会を作った。各自チェックの多い項目については、重点を置いて取り組みたい項目として意識して取り組むように努めた。毎月、全体を集計し、チェックの多い項目について会議で取り上げ、状況を確認し、改善出来るよう意見を出し合った。
- ② 身体拘束廃止委員会主催で、年に2回身体拘束に関する勉強会を行い、理解を深めてもらえるよう努めた。その内容は全員に周知した。
- ③ 身体拘束廃止委員会は、おおよそ3ヶ月に一回開催し、検討事項について話し合いを行い、全員に周知を図った。

年間行事計画の実施状況

| 実施年月日 | 行事名 | 場所 | 具体的目標 |
|----------------------|--------------------------------|---------------|--|
| 令和 2年 4月25日 | お花見 | ひなたの家前 | 季節感を味わっていただく |
| 令和 2年 4月30日 | ラーメンを食べる会 | ひなたの家内 | 好まれるものを食べて満足感を感じていただく |
| 令和 2年 5月25日 | 花、野菜の苗植え | ひなたの家内 | 季節感を味わっていただく 入居者様同士の交流を図る |
| 令和 2年 5月28日 | 居酒屋ひなた | ひなたの家内 | 装飾や食事、ノンアルコールビール等で居酒屋の雰囲気を楽しんでいただく |
| 令和 2年 7月 7日 | 七夕会 | ひなたの家内 | 装飾や食事を通して季節感を味わっていただく |
| 令和 2年 8月 1日 | すいか割り | ひなたの家内 | 季節感を味わっていただく |
| 令和 2年 8月 4日 | お菓子バイキング | ひなたの家内 | 季節感を味わっていただく |
| 令和 2年 8月13日 | お盆行事 | ひなたの家内 | 季節感を味わっていただく |
| 令和 2年 8月25日 | ドライブ | 東成瀬方面 | なじみの場所をドライブすることで気分転換を図る |
| 令和 2年 8月28日 | ひなたの家納涼祭 打ち上げ花火見物 線香花火大会 | ひなたの家内 | 入居者同士、職員と交流を図り、季節感を味わっていただく |
| 令和 2年 9月10日 | ドライブ | 増田方面 | なじみの場所をドライブし気分転換を図る |
| 令和 2年 9月19日 | お彼岸行事 | ひなたの家内 | 季節感を味わっていただく |
| 令和 2年 9月21日 | 敬老会 | ひなたの家内 | 職員から日頃の感謝を伝え、長寿を祝う |
| 令和 2年10月 1日 | 芋煮会 中秋の名月 | ひなたの家内 | 旬のものを味わい季節を感じていただく |
| 令和 2年10月17日 ～ 21日 | 紅葉見物 | 東成瀬方面 横手方面 | 入居者同士の交流を図る 季節感を味わっていただく |
| 令和 2年11月11日 | 塩の日昼食会 | ひなたの家内 | 普段は提供していない、入居者様の好まれる塩分高め食材を提供し、満足感を感じていただく |
| 令和 2年12月 2日 | 収穫祭 | ひなたの家内 | 入居者同士の交流を図る 季節感を味わっていただく |
| 令和 2年12月 8日 | 体育祭 | ひなたの家内 | 入居者同士の交流を図る 身体を動かす機会を持つ |
| 令和 2年12月10日 | ラーメンの日 | ひなたの家内 | 入居者様の好まれる食事を提供、満足感を感じていただく |
| 令和 2年12月21日 | 冬至の行事 | ひなたの家内 | 入居者同士の交流を図る 季節感を味わっていただく |
| 令和 2年12月24日 | クリスマス会 | ひなたの家内 | 入居者同士の交流を図る 季節感を味わっていただく |
| 令和 2年12月30日 | もちつき | ひなたの家内 | 入居者同士の交流を図る 季節感を味わっていただく |
| 令和 2年12月31日 | 大晦日年越し | ひなたの家内 | 季節感を味わっていただく |

| 実施年月日 | 行事名 | 場所 | 具体的目標 |
|-------------|------------------------|--------|------------------------------|
| 令和 3年 2月 3日 | 節分 | ひなたの家内 | 入居者同士の交流を図る 季節感を味わっていただく |
| 令和 3年 2月14日 | バレンタインデー (お菓子バイキング) | ひなたの家内 | 入居者同士の交流を図る 好みのものを選ぶ機会を持つ |
| 令和 3年 2月27日 | ラーメンの日 | ひなたの家内 | 好まれるものを食べて満足感を感じていただく |
| 令和 3年 3月 3日 | ひな祭り | ひなたの家内 | 入居者同士の交流を図る 季節感を味わっていただく |
| 令和 3年 3月 7日 | 体育祭 | ひなたの家内 | 入居者同士の交流を図る 身体を動かす機会を持つ |
| 令和 3年 3月14日 | サンドイッチ パーティー | ひなたの家内 | 好まれるものを食べて満足感を感じていただく |
| 令和 3年 3月21日 | お彼岸 おはぎ作り | ひなたの家内 | おはぎ作りを通して季節感を味わっていただく |

「グループホーム ひなたの家」

慰問・ボランティア・実習等の状況

| 視察・慰問年月日 | 視 察・慰 問 者 名 | 備 考 |
|----------|--------------------|-----|
| 令和 2年 | コロナウイルス感染予防の為、実績なし | |

防災計画の状況

令和2年度 年間計画の実施状況

防災避難訓練（日中訓練）

| 実施日 | 参加者数 | 主な内容 |
|------------------------------|--|--------------------------|
| 令和2年 6月 17日 13時50分～14時10分 | 職員総数 10名 入居者様 8名 横手消防署増田署員 0名 セフティ 1名 | 消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練 |

防災避難訓練（夜間想定訓練）

| 実施日 | 参加者数 | 主な内容 |
|-----------------------------|--|--------------------------|
| 令和2年10月21日 13時50分～14時00分 | 職員総数 8名 入居者様 7名 横手消防署南署員 4名 セフティ 1名 セコム 1名 | 消化訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練 |

防災対策自主点検

| | | |
|------|------|------|
| 保守点検 | 年 1回 | (9月) |
|------|------|------|

上記の点検等は令和2年度同様令和3年度も実施整備する。

令和2年度 ショートステイ ラ・ボア・ラクテ 総括

1. ①利用者様の状態やニーズは年々多様化しているが、利用者様毎に情報を的確に把握しながら個別性
の高いサービス提供が行えている。特に機能訓練ではニーズや状態に合わせて個別リハビリを実施し、身体機能維持・向上、在宅生活の継続・再開に繋げることが出来ている。今後も、より地域に於けるショートステイの役割が果たせるように関係機関との連携を密にしながら、利用者様の望む生活が送れるように支援したい。
 - ②新型コロナウイルス感染症予防の為、対外的な催しや、オンライン以外の外部研修参加を中止した。家庭介護者教室においては、代わりに施設の紹介文書を作成し、配布を行った。今後も同じような状況が継続すると予想されるため、研修への参加方法や情報の発信方法を再度検討し、状況にあわせて対応していきたい。
 - ③住み慣れた地域や自宅を中心に本人らしい生活が送れるように、利用者様一人一人の状況に応じて
各部署及び関係機関等と連携を深め、支援することができた。また、昨年度に引き続き機能訓練とレク活動・行事により特色を持たせることで、利用者様の社会参加や身体機能維持・向上に努めることができた。今後も施設の特色とサービス提供をより充実させることが出来るよう努めたい。
2. ①目標管理シートを職員全員が作成し、明確な目標と達成手段を定め自己評価を行うことが出来ている。さらに自己評価に対して上司評価を行うことで擦り合わせができ、来期の目標設定やモチベーションの維持・向上に繋げることが出来た。今後も評価の内容を踏まえ、更に専門知識や技術の向上を図り、職員一人一人が役割を持ちながら施設全体がレベルアップ出来るように努めたい。
 - ②新型コロナウイルス感染症予防の為、オンライン以外の外部研修への参加は中止とした。来年度は研修の開催状況を確認しながら、感染予防に努めた研修、内部研修を可能な限り充実させ、スキルアップに努めていきたい。
 - ③継続して年2回職員全員が技能チェックリストを行うことにより、業務の振り返りと現時点の能力を把握する機会となっている。今後はチェックリストの結果を細分化することで、各部署、個人個人の強み弱みを知り、人材育成・キャリアアップ構築に活用していきたい。
 - ④各部署会議、定期カンファレンス、朝カンファレンス等を通じて、利用者様の課題を共通認識、把握しながら、生活の質を向上させるためのサービス提供を行えている。また現状維持ではなくサービスの質の向上、職場環境の充実を図るため、適宜業務改善等を行っている。今後も継続して職員全員が長く勤務することができる施設づくりに努めたい。

3. ①事前訪問、ケアカンファレンス、サービス担当者会議を通じて、利用者様の要望、ニーズを的確に把握し、各専門職がサービス提供出来た。特に今年度はサービス提供だけではなく、結果どのように変化したのか、継続した支援がフロア内や部署内で強化された。今後は、ショートステイであるため、利用者様のニーズ・要望をタイムリーに共有し、必要に応じて職員配置の再構築、外部関係者との連携をより一層強く出来るように努めたい。
- ②事前訪問調査、ケアカンファレンス、サービス担当者会議を通じて、利用者様の生活課題や援助方針を的確に把握しながら、各専門職が果たす役割を明確にできている。今後の課題としては、実施したサービス提供が効果的であったか、モニタリング・アセスメント力を身に付けられるように検討していきたい。
- ③レクリエーションは、各フロアの特色や季節に応じた活動が毎日実施できている。
また、レクプロ（レクリエーションプログラム）メンバーを中心に毎月レクの日を持ち、手芸活動・運動活動・映画鑑賞など様々な活動を提供出来ている。結果、フロアを超えた利用者交流、心身のリフレッシュ、生活意欲の向上に繋がっている。
4. 年2回の防災訓練を城東消防署と連携し、安全に配慮しながら行うと同時に避難経路や避難方法の見直しも行い、円滑な有事対応を検証することができた。また防災用品の再検討や補充を行うことと、人員変動に伴った防災マニュアル及び消防計画の見直しが出来ている。緊急連絡訓練の実施も年2回行うことができおり、有事の際に円滑な対応が行えるよう継続した取り組みを行っていききたい。
5. 新型コロナウイルス感染症の対策の為、例年に加え消耗品費等の購入が増えたが、助成金で対応出来た。来年度においては助成金がない為、支出の増加が予想されるが、感染症が蔓延しないよう適切な対応に努めていきたい。

【各種委員会関係】

『給食改善検討委員会』

実績報告

- ① 利用者様からの意見をもとに嗜好を考慮し、食べづらい食材を控え、メニューの変更・廃止等献立に出来る限り反映出来るよう取り組んだ。個人対応や食形態等は日々変化していくため、厨房業者と情報共有を密にし、お互い協力しながらより良い食事の提供に努めた。
- ② カンファレンス時や日頃の生活の中で気になったことを職員と情報共有し、個人に配慮した提供が出来るよう取り組んだ。利用者様からの直接の声、職員からの状況報告をもとに話し合い、厨房業者へ伝え、新たな個人対応や形態の変更等の改善に努めた。肉が硬く、噛むことが難しくなってきた方が増えてきたので『薄切り肉』への変更や、食事摂取量が少ない利用者様に対しては、職員と共有しながら対応を考え、食べやすい麺類やパンにする等、利用者様の希望を伺い、対応に取り組んだ。
- ③ 四季を考慮した行事食やおやつレクを行った。今年は新型コロナウイルスの影響で外出ができなかった為、外部の方をお招きし、作って頂いた。いつもと違う食事は大変好評だった。各職員で連携しながら、前年度の反省をもとに計画を考えて実施することができた。

次年度は厨房業者と施設栄養士で衛生管理を徹底し、安心安全の食事提供に努めたい。また、嗜好調査や家族アンケートの意見等、反省点を踏まえながら新たな取り組みに挑戦し、より良い食事を提供していきたい。

『家庭介護者教室運営委員会』

実績報告

第1回目として11月に施設紹介のリーフレットを作成し、ご家族様や地域への配布を行った。施設での活動や生活風景、リハビリの様子を掲載し、施設をアピール出来るよう作成した。

第2回目も、新型コロナウイルスの影響で施設内での開催が出来ないため、第1回同様にペーパーベースで作成し、ポスティング等を行う予定で話し合いを行ったが、内容等を検討し、実施するのに時間がかかり結果として11月の1回のみの実施となってしまった。今後も実施の仕方等を考慮し、工夫しながら地域に貢献出来るような活動を行っていきたい。

『行事委員会』

実績報告

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、外出行事は行えなかった。慰問に関しても基本的には行えなかったが、リモートによる舞妓行事を行い、外部との交流を持つことが出来た。慰問を行えない状況が続く場合は、リモートによる慰問を検討していく。

外出行事を行えない状況にあったため、施設内でも季節感を感じて頂けるような行事を意識して行っ

た。春は桜の木の枝を購入し、施設内で観賞しながら、いちご狩りゲームを行った。夏祭りは、例年のように、ご家族様と交流しながら行う事は出来なかったが、施設内で密を避けながら行った。ゲームやお神輿が好評であった。秋には新米おにぎり行事という新しい行事を行い、収穫したてのお米の味を味わって頂いた。冬は恒例になっているクリスマス会を行った。行事全体を通して、マスク着用、消毒、必要に応じて手袋の着用等、感染対策をしつつも、なるべく行事の質を落とさないことを意識した。

外出行事が行えない事で、室内で行える行事を模索し、新米おにぎり行事の他にもカフェ行事等、新しい行事も生まれた。コロナ禍で、出来ない事が増えた分、新しい取り組みも増やしていきたい。

来年度、コロナウイルスの状況にもよるが、感染対策を十分に行える場所を選んで外出行事も検討していきたい。コロナ禍でも行事の質を落とさずに利用者様が心から楽しめるようなものを行っていききたい。

『広報委員会』

実績報告

5月、8月、11月、2月の3ヶ月に1回のペースで広報誌を発行した。季節に合わせた行事や新たに試みた行事の様子その他、レクリエーションプロジェクトの活動や栄養士主催のボア喫茶の様子など、ラ・ボア・ラクテならではの取り組みを掲載し、施設の特色を周知した。

また、ホームページにも実施した行事の写真や発行済みの広報を掲載し、幅広い範囲の方に向けて情報の発信を行った。

次年度も施設の取り組みや特色を多くの方に知って頂けるよう、見やすく分かりやすい広報誌の作成と、ホームページを活用した迅速な情報発信を行うよう努めたい。

『感染対策委員会』

実績報告

①②月に1回委員会を開催し、感染予防対策の実施状況を確認しフロアの現状を話し合った。

・インフルエンザについて

今年度は、新型コロナウイルス発生もあり、個々の感染防止対策ができていたこともあったためか、利用者様及び職員のインフルエンザへの罹患者はいなかった。

・新型コロナウイルスについて

新型コロナウイルスが県内でも広がり強めており、施設内で蔓延することのないように、職員一人一人が十分に意識をして対応をしていく必要があった。職員の体調不良者が数名おり、PCR検査の結果陰性であったが、感染症が発生した場合速やかに感染症対策を実行し、感染拡大防止に努める必要がある。マスクの着用、居室やトイレ等利用者様が触れる場所をエークイックで消毒、換気や手洗い・うがいの喚起を行い、感染防止に努めている。

③新型コロナウイルス発生時対応マニュアルを、インフルエンザ・ノロウイルスのマニュアルとコロナウイルスのフェーズ表をベースに話し合いを重ね作成し、6月に追加した。

④「新型コロナウイルス対策」についての勉強会を11月6日に実施した。

秋田県内においても、新型コロナウイルスが県内でも広がり強めている為、感染対応については、職員一人ひとり強い危機感をもち実践することが重要となる為、今後も感染対策委員会で啓発を続

けていくこととする。

『褥瘡対策委員会』

実績報告

委員会内にて利用者様のADL・身体的情報を共有し、ベットマットの検討や個別ケアを考え、実施・評価してきた。新たな褥瘡形成する利用者様がいらっしゃったが、正しいポジショニングの徹底など啓発に努め、悪化することは無かった。今後も情報共有を密に行い、利用者様が安楽に過ごせるようその人に適したポジショニングやケアを実施していく。

『身体拘束廃止委員会』

実績報告

①御利用者様一人一人の安全の確保と尊厳を保持する為に必要以上にセンサーを設置せず、適切であるか都度評価する事ができた。センサーが適しているのか等必要性を的確に判断し、安心して生活できるように検討する事ができた。又、故障や不具合がないか定期的に確認を行った。また、スピーチロックや不適切な発言がないか、日々の業務を観察するとともに、委員会で啓発を行い、予防に努めた。新規ご利用者様に関しては事前情報をもとに入所後の状態の観察を行い、朝カンファレンスや定期カンファレンスを通して他職種の観点も加えて判断し、適切なケアに努めた。

②今年度、身体拘束ゼロだった。止むを得なく身体拘束が必要になった場合に備え、身体拘束解除に向けての取り組みなど確認を行った。身体拘束ゼロ、廃止に向け、又それを必要としない介護を行っていく為、利用者様の状態の把握に努め、情報共有を徹底していく。

③施設外での研修に関しては、新型コロナウイルスの影響により年度途中でオンライン研修のみの参加となり、十分な参加ができなかった。施設内での研修は委員会が中心となり年2回勉強会を実施し、身体拘束の理解を深め、知識の習得と啓発を行った。

『安全衛生管理委員会』

実績報告

例年行っている福祉用具の安全点検は2回実施した。10年目を迎え、修善対応箇所が増えてきたが、可能な限り修繕することで労働災害の防止に努めた。ソフト面においては、メンタルヘルスケアについての情報を発信するとともにストレスチェックを実施し、精神ケアに尽力した。新型コロナウイルス感染症の影響で、精神的にも身体的にも負荷がかかっている状況であるが、安全衛生に努め、状況にあわせて労働環境を改善していきたい。

『高齢者虐待防止委員会』

実績報告

①② 今年度、施設内外での虐待は認められなかった。前年度同様、虐待の予防として、委員会主催での勉強会の実施、委員会会議内での職員への啓発、知識の習得に努めた。介助中にできたと思われ

る内出血斑がみられ、虐待と疑われる事がないように適切で安全な介助方法の周知と対応策の徹底を行っていく。又、ストレスチェックを実施し、新型コロナウイルスの影響による職員の精神状態の変化の把握に努め、問題はみられなかった。今後も職員のストレスの把握、緩和に努めていく。

③ 施設外での研修に関しては、新型コロナウイルスの影響により年度途中でオンライン研修のみの参加となり、十分な参加が出来なかった。施設内での研修は年1回勉強会を実施し、個々の知識の習得と理解を深め、啓発を行う事ができた。

『事故発生防止委員会』

実績報告

1. ①前月の各部門で挙げたヒヤリ・ハット、気づき報告の周知と、前月事故の集計・分析、1か月前の事故の対応策についての振り返りを行った。今年度の事故発生件数、及び前年度比については下記の表を参照。事故件数の累計は25件増加。前年度最も多く発生していた転倒・転落は4件減少。誤嚥の事故は2件発生している。皮膚トラブルが前年比で24件増加。皮膚状態が脆弱な為、起こりやすくなっている状況とも考えられる。介助方法の見直しや適切な福祉用具の活用を行っていく必要がある。今年度は、新規利用者の事故は少ない傾向にあるが、長期の利用者の事故が多かった。状態が徐々に変化してきている為、日頃の情報共有と普段の観察力を向上させていくように各フロアでKYT（危険予測訓練）活動の実施を行った。

事故の発生場所としては、居室内が一番多く、次いで食堂となっている。居室や浴室等皮膚状態の観察できる場所での皮膚トラブル件数が増加している。センサー使用者も多く、定期的なセンサーの適正化を評価している。

又、不注意の事故が前年度から19件増加しており介護技術の向上と統一した対応を定着させる必要がある。日々の対応の中で、ヒヤリ・ハット、気づき報告を朝のカンファレンスで毎日見直し、意識・観察力向上につなげていく。

| | 転倒・転落 | 誤薬 | 皮膚トラブル | チューブトラブル | 誤嚥 | その他 | 累計 |
|------|-------|-----|--------|----------|-----|-----|------|
| 今年度 | 68件 | 2件 | 41件 | 3件 | 2件 | 28件 | 144件 |
| 前年度比 | -4件 | +1件 | +24件 | +1件 | +1件 | +3件 | +25件 |

②新規採用者には、事故防止のための当施設の取り組みである、気づき報告書について重点的に説明を行った。勉強会では、緊急時の対応について行い、日頃からの観察力向上・意識づけに繋がるよう行った。事故件数増加に伴い、KYT（危険予測訓練）活動の導入も始めた。

③新型コロナウイルスの予防の為、外部研修等への出席は控えた。

2. 大きな紛争に発展した事例はなかった。

研修・出張の実施状況

| 参加年月日 | 研修内容 | 場所 | 参加者 |
|-----------|-----------------|-----|--------|
| 令和2年4月7日 | 令和2年度認定調査員新任者研修 | 秋田市 | 佐々木 里実 |
| 8月6日～7日 | 令和2年度地域福祉推進研修 | 秋田市 | 伊藤 美波 |
| 8月17日～18日 | 令和2年度研修担当職員研修 | 秋田市 | 田中 奈留美 |
| 9月14日 | 令和2年度OJTリーダー研修 | 秋田市 | 佐藤 要輔 |
| 10月27日 | 令和2年度クレーム対応研修 | 秋田市 | 稲荷 一将 |
| 11月2日 | 令和2年度調理技術研修 | 秋田市 | 斉藤佳名子 |
| 令和3年3月24日 | 介護保険法に基づく集団指導 | 秋田市 | 稲荷 一将 |

職員学習会の実施状況

| 開催年月日 | 研修内容 | 参加人数 |
|-------------|---------------------|------|
| 令和2年 5月27日 | 食中毒について | 12名 |
| 8月27日 | 高齢者虐待防止・身体拘束廃止について | 11名 |
| 9月 9日～11日 | 経営状況とコスト意識について | 26名 |
| 10月28日 | 事故発生及び再発防止について | 8名 |
| 11月 6日 | コロナウイルスについて | 12名 |
| 12月25日 | 身体拘束廃止について（スピーチロック） | 9名 |
| 令和 3年 1月26日 | 事故発生時、緊急時の対応について | 11名 |
| 2月24日 | 個人情報保護・法令遵守・倫理について | 11名 |
| 3月31日 | 看取り介護について | 13名 |

年間行事計画の実施状況

| 実施年月日 | 行事名 | 場所 | 具体的目標 | 主な内容 |
|---------------------|-----------|----------------|--|-------------------------|
| 令和 2年 4月 8日 ～10日 | お花見レク行事 | 施設各フロア | 季節感を味わう行事の提供 | お菓子の提供と レクリエーション |
| 4月30日 ～ 5月 1日 | お茶会行事 | 施設各フロア | 季節感を味わう行事の提供 | 抹茶・お茶菓子の提供 とレクリエーション |
| 5月 4日～ 6日 | 菖蒲の湯行事 | 5階浴室 | 季節感を味わう行事の提供 | 菖蒲湯に入浴 |
| 5月18日～20日 | カフェ行事 | 施設各フロア | 感染症の為外出が出来ない 中でカフェ気分を味わう行 事の提供 | ダルゴナコーヒーと お菓子の提供 |
| 5月10日 | 母の日行事 | 施設各フロア | 女性利用者へ感謝を伝える 他利用者との交流を図る | 花・メッセージカード 贈呈 |
| 6月21日 | 父の日行事 | 施設各フロア | 男性利用者へ感謝を伝える 他利用者との交流を図る | 花・メッセージカード 贈呈 |
| 7月22日 | 祭り | 施設各フロア 5階食堂 | 祭りを開催し非日常的な時 間を過ごす | 催し物 |
| 8月 3日～ 4日 | ずいか割り行事 | 施設各フロア | 季節感を味わう行事の提供 | ずいか割りの実施 |
| 8月 7日 | オンライン舞妓行事 | 3、4階食堂 | 地域の機関と交流を図る | オンライン公演の実施 |
| 8月18日～20日 | 流しそうめん行事 | 施設各フロア | 季節感を味わう行事の提供 | 流しそうめんの実施 |
| 8月28日 | 花火行事 | 西側駐車場 | 季節感を味わう行事の提供 | 花火の実施 |
| 9月23日 | 敬老会行事 | 施設各フロア | 利用者の長寿を祝う | 長寿の表彰 記念品の贈呈 |
| 10月 5日～ 7日 | BBQ 行事 | 施設各フロア | 季節感を味わう行事の提供 | 食事・ドリンクの提供 |
| 10月30日 | ハロウィン行事 | 施設各フロア | 季節感を味わう行事の提供 新しい文化に触れ刺激を受 けていただく | 職員の仮装 お菓子の提供 |
| 11月 9日～11日 | 新米おにぎり行事 | 施設各フロア | 他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供 | おにぎり作り |
| 11月19日 | 大運動会 | 施設各フロア | 他利用者との交流を図る | 4種目の競技実施 |
| 12月21日～23日 | 冬至(ゆず湯)行事 | 5階浴室 | 季節感を味わう行事の提供 | ゆず湯に入浴 |
| 12月25日 | クリスマス会 | 施設各フロア | 季節感を味わう行事の提供 | 演奏披露 ドリンクの提供 |

| 実施年月日 | 行事名 | 場所 | 具体的目標 | 主な内容 |
|------------|-------------|--------|-----------------------------|--------------------|
| 12月30日 | もちつき行事 | 3、4階食堂 | 他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供 | もちつきの実施 |
| 令和3年 1月 5日 | 新年会行事 | 施設各フロア | 季節感を味わう行事の提供 | 職員による出し物の実施 |
| 1月19日～22日 | 鍋行事 | 施設各フロア | 季節感を味わう行事の提供 | だまご鍋調理 |
| 2月 4日 | 節分行事 | 施設各フロア | 他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供 | 豆まきの実施 |
| 2月16日～19日 | 春の工作行事 | 施設各フロア | 他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供 | 施設内掲示の作品作成 |
| 3月 3日 | ひな祭り行事 | 施設各フロア | 他利用者との交流を図る | 甘酒の提供と レクリエーション |
| 3月18日～22日 | 春の工作(仕上げ)行事 | 施設各フロア | 他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供 | 施設内掲示の作品作成 |

慰問・ボランティア・実習等の状況

| 視察・慰問年月日 | 視 察 ・ 慰 問 者 名 | 備 考 |
|----------|--------------------|-----|
| 令和 2年 | コロナウイルス感染予防の為、実績なし | |

防災計画の状況

令和2年度 年間計画の実施状況

防災避難訓練(夜間想定)

| 実施日 | 参加者数 | 主な内容 |
|----------------------------|---|---|
| 令和2年6月19日 14時00分～14時30分 | 職員総数 20人 利用者様 42人 友愛ビルサービス 1人 城東消防署 3人 | 消火活動に使用する設備・器具 の取扱い訓練 消火訓練 屋内消火栓の扱い方 通報連絡訓練 避難誘導訓練 |

防災避難訓練(日中想定)

| 実施日 | 参加者数 | 主な内容 |
|----------------------------|--|--|
| 令和3年2月17日 14時00分～14時25分 | 職員総数 21人 利用者様 3人 友愛ビルサービス 1人 あきたすてらクリニック 2人 | 屋内外消火栓の扱い方 通報連絡訓練 避難誘導訓練 消火訓練 |

防災対策自主点検

| | |
|------|---------------|
| 保守点検 | 年 2回 (5月、11月) |
| 自主点検 | 年 1回 |
| 防災点検 | 毎日1回 |

上記の点検等は令和2年度同様、令和3年度も実施整備する

令和２年度 居宅介護支援センター 総括

令和２年度においては、「日本介護支援専門員協会居宅介護支援部会」として活動し、また前年度同様に厚生労働省モデル事業介護サービスにおける生産性向上ガイドラインのモデル事業に採択され、全国フォーラムでの発表の好機を得ることが出来た。業務負担については、２年間にわたりモデル事業を継続することが出来たため整理されてきている。

令和２年度の利用者様の純増件数は３７件で、殆どが当事業所を指名しての契約となった。今後も、必要・不必要を見極め、利用者様に接する時間や調整時間を多くもち、地域の中で自立した日常生活が出来るように地域に根差した支援を継続したい。

令和２年度 訪問介護センター 総括

今年度も、特定事業所加算を維持することが出来た。生活援助の件数の伸び悩みはあったが、身体介護の新規利用者が増え、件数も増加した。

職員の異動はなく、業務はスムーズに行えたが、細かな情報伝達が出来ていない部分もあったので、今後は情報共有を密にしていきたい。

次年度は、可能な限り研修に参加し、知識を身につけて利用者様が安心してより良く在宅生活を送れるように支援していきたい。

令和2年度 訪問リハビリセンター 総括

1. 主治医から診療情報提供を頂き、訪問リハビリテーション指示医（りんごの里福寿園医師）の診察・リハビリテーション指示に基づいての訓練の実施。また主治医・指示医との情報交換を密に行うことが出来た。
2. りんごの里福寿園医師による訪問診察と訓練職員1名体制になったことに伴い、訪問リハビリ提供範囲は増田町・十文字町・平鹿町・湯沢市駒形町・湯沢市川連町・横手市(十文字町から転居)となっている。
3. 令和2年10月より、横手市からの委託事業である健康アップ教室業務を訪問リハビリテーションセンターで実施している。

令和2年度 ラ・ボア・ラクテ 居宅介護支援センター 総括

1. 新型コロナウイルスの影響により研修が中止になったり、オンライン研修が主となり、例年より研修参加の機会は減少した。
2. 利用者様個々の状況に応じたサービス調整や家族との情報の共有により、個々の目標達成に向けて取り組みを行った。
3. 他事業所、地域包括、行政、医療機関との連携・情報交換を必要に応じて行った。
地域包括支援センター主催の研修やそこからの紹介利用者を受けすることで、地域包括支援センターとの関わりも増え、担当件数増加に繋がった。
4. 利用者様の個々の意思及び人格を尊重し、公正中立・法令遵守に努め、適切に業務を行うように努めた。
5. 新型コロナウイルスの影響により、各関係機関との交流は減少したが、電話連絡等の連携は可能な限り早く行えるように努めた。今後、オンライン等の方法で対応する場面が増加することが考えられるため、それに順応できるようにする。

事業別利用者状況表

(令和2年度)

| りんごの里 福寿園 | R2.4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | R3.1月 | 2月 | 3月 | 合計(人) | 月平均(人) | 平均利用者 |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|
| 施設サービス | 2,749 | 2,781 | 2,710 | 2,852 | 2,802 | 2,656 | 2,763 | 2,632 | 2,821 | 2,808 | 2,541 | 2,777 | 32,892 | 2,741 | 98.39 |
| 短期入所 | 144 | 296 | 264 | 229 | 252 | 280 | 289 | 289 | 243 | 246 | 229 | 259 | 3,020 | 252 | |
| 介護予防短期入所 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 合計 | 2,893 | 3,077 | 2,974 | 3,081 | 3,054 | 2,936 | 3,052 | 2,921 | 3,064 | 3,054 | 2,770 | 3,036 | 35,912 | 2,993 | |
| 通所リハビリテーション | 886 | 946 | 943 | 1,006 | 1,019 | 1,022 | 1,019 | 977 | 951 | 804 | 869 | 939 | 11,381 | 948 | 33.74 |
| 予防介護通所リハビリテーション | 57 | 57 | 64 | 74 | 55 | 73 | 84 | 72 | 73 | 61 | 74 | 89 | 833 | 69 | |
| 合計 | 943 | 1,003 | 1,007 | 1,080 | 1,074 | 1,095 | 1,103 | 1,049 | 1,024 | 865 | 943 | 1,028 | 12,214 | 1,018 | |

| グループホーム ひだまりの家 | R2.4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | R3.1月 | 2月 | 3月 | 合計(人) | 月平均(人) | 平均利用者 |
|----------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-------|--------|-------|
| | 540 | 558 | 540 | 558 | 523 | 484 | 558 | 540 | 551 | 533 | 504 | 558 | 6,447 | 537 | 17.66 |

| グループホーム ひなたの家 | R2.4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | R3.1月 | 2月 | 3月 | 合計(人) | 月平均(人) | 平均利用者 |
|---------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-------|--------|-------|
| | 270 | 279 | 270 | 279 | 279 | 270 | 279 | 270 | 279 | 279 | 252 | 279 | 3,285 | 274 | 9.00 |

| ショートステイ ラ・ポア・ラクテ | R2.4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | R3.1月 | 2月 | 3月 | 合計(人) | 月平均(人) | 平均利用者 |
|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|
| | 1,852 | 1,940 | 1,861 | 1,945 | 1,923 | 1,847 | 1,939 | 1,840 | 1,918 | 1,939 | 1,739 | 1,924 | 22,667 | 1,889 | 62.10 |

| りんごの里 福寿園 訪問介護センター | R2.4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | R3.1月 | 2月 | 3月 | 合計(人) | 月平均(人) |
|--------------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-------|--------|
| 身体介護 | 141 | 161 | 166 | 172 | 169 | 161 | 191 | 164 | 157 | 112 | 147 | 173 | 1,914 | 160 |
| 生活援助 | 71 | 80 | 77 | 76 | 57 | 58 | 60 | 57 | 62 | 62 | 55 | 58 | 773 | 64 |
| 身体生活 | 98 | 100 | 100 | 107 | 98 | 90 | 76 | 62 | 54 | 71 | 67 | 67 | 990 | 83 |
| 総合事業 | 72 | 71 | 72 | 73 | 67 | 65 | 67 | 63 | 62 | 57 | 59 | 57 | 785 | 65 |
| 合計 | 382 | 412 | 415 | 428 | 391 | 374 | 394 | 346 | 335 | 302 | 328 | 355 | 4,462 | 372 |

※総合事業分等は含む

| りんごの里 福寿園 訪問リハビリセンター | R2.4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | R3.1月 | 2月 | 3月 | 合計(人) | 月平均(人) |
|----------------------|-------|----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|-------|----|-----|-------|--------|
| | 98 | 98 | 134 | 100 | 98 | 90 | 118 | 110 | 118 | 103 | 92 | 113 | 1,272 | 106 |

※介護予防分含む

| りんごの里 福寿園 居宅介護支援センター | R2.4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | R3.1月 | 2月 | 3月 | 合計(人) | 月平均(人) |
|----------------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-------|--------|
| | 162 | 166 | 168 | 164 | 162 | 158 | 164 | 163 | 159 | 154 | 161 | 167 | 1,948 | 162 |

| ラ・ポア・ラクテ 居宅介護支援センター | R2.4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | R3.1月 | 2月 | 3月 | 合計(人) | 月平均(人) |
|---------------------|-------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-------|----|----|-------|--------|
| | 19 | 20 | 19 | 19 | 19 | 20 | 21 | 19 | 21 | 20 | 26 | 24 | 247 | 21 |

事業実績報告の付属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況
特にありません。

2. その他の重要な事項
特にありません。